

2014年3月期 決算説明会

ジオマテック株式会社

2014.5

2014年3月期業績結果について

業績概要《連結》

	2014.3	2013.3	前年同期比較		参考値(単体) 2014.3
			増減額	(増減率)	
売上高 (百万円)	10,347	9,821	526	(5.4%)	8,710
営業利益 (百万円)	995	841	154	(18.3%)	856
経常利益 (百万円)	1,017	886	131	(14.8%)	907
当期純利益 (百万円)	979	845	133	(15.8%)	868
1株当たり純利益 (円)	122.51	100.90	21.61	(21.4%)	108.67
加工高 (百万円)	8,594	7,965	629	(7.9%)	7,382

※加工高とは、売上高から基板材料費と外注加工費を差し引いた、成膜分の売上(付加価値収入)のことです。
尚、加工高は、当社の管理数値として使用しているもので会計数字とは必ずしも一致しません。

業績概要《単体》

	2014.3	2013.3	前年同期比較	
			増減額	(増減率)
売上高 (百万円)	8,710	8,645	65	(0.8%)
営業利益 (百万円)	856	1,009	△ 153	(△ 15.2%)
経常利益 (百万円)	907	1,058	△ 151	(△ 14.3%)
当期純利益 (百万円)	868	1,022	△ 154	(△ 15.0%)
1株当たり純利益 (円)	108.67	121.97	△ 13.38	(△ 10.9%)
加工高 (百万円)	7,382	7,317	65	(0.9%)

※加工高とは、売上高から基板材料費と外注加工費を差し引いた、成膜分の売上(付加価値収入)のことです。
尚、加工高は、当社の管理数値として使用しているもので会計数字とは必ずしも一致しません。

2014年3月期業績概況

➤ 市場環境

- 中小型フラットパネルディスプレイ市場は、スマートフォン、タブレット端末が市場を牽引する状況で推移
- 但し、スマートフォン、タブレット端末向け部品市場は、11月以降調整に入ったことから、第3四半期以降の市場環境は厳しい状況で推移

➤ 収益結果要因

- 国内収益は、電力料が高騰したことにより前期比低下するものの、中国子会社が黒字化したことから、連結ベースでは前期比大幅な増加

➤ 主な取り組み

- 帯電防止膜及びタッチパネル向け生産ラインの増設
- 抵抗式タッチパネルの生産品目の一部を中国子会社に移管

財務概要

	2014.3	2013.3	前期末比較		参考値(単体) 2014.3
			増減額	(増減率)	
総資産 (百万円)	29,568	26,384	3,184	(12.1%)	29,230
純資産 (百万円)	18,079	17,415	664	(3.8%)	17,950
自己資本比率 (%)	61.1	66.0	△ 4.9	(△ 7.4%)	61.4
1株当たり純資産 (円)	2,285.51	2,077.52	207.99	(10.0%)	2,269.24

キャッシュフロー概要

	2014.3	2013.3	前年同期比較	
			増減額	(増減率)
営業活動によるCF (百万円)	2,311	1,599	711	(44.5%)
投資活動によるCF (百万円)	△ 925	△ 959	△ 33	(△ 3.4%)
財務活動によるCF (百万円)	△ 516	△ 499	17	(3.4%)
現金及び同等物残高 (百万円)	9,660	8,735	925	(10.6%)
(同借入金相殺後) (百万円)	6,625	5,927	698	(11.8%)
設備投資額 (百万円)	1,339	1,014	325	(32.1%)
減価償却費 (百万円)	974	972	2	(0.2%)

2014年3月期 製品概況

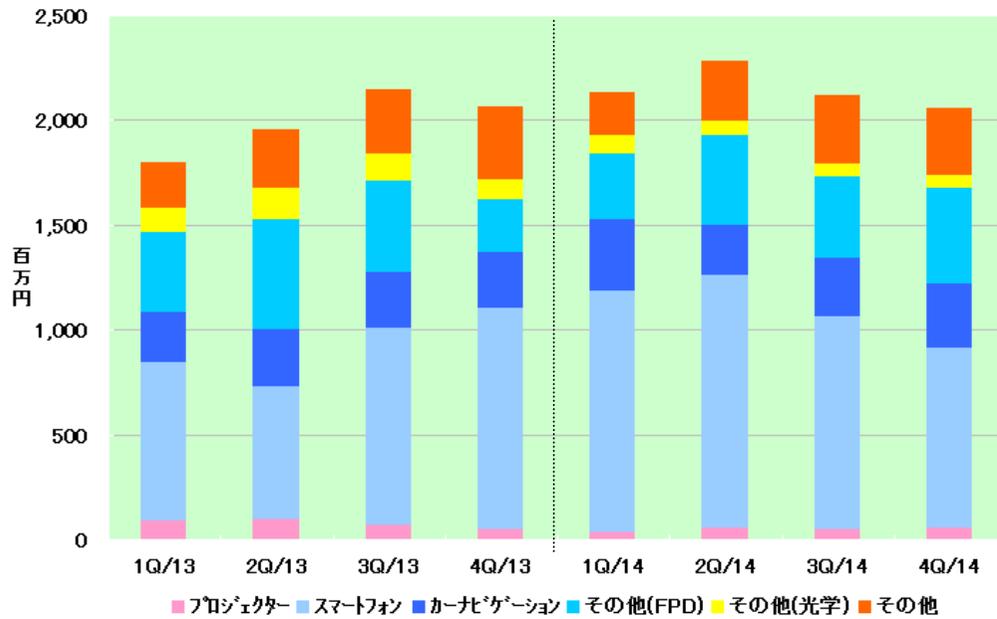
- 液晶パネル用基板(帯電防止膜) (前期比 100.8%)
 - スマートフォン・タブレット端末向けで安定的に推移
- タッチパネル用基板(抵抗方式) (前期比 127.0%)
 - カーナビゲーション向けで安定的に推移
- タッチパネル用基板(静電容量方式) (前期比 135.4%)
 - 上期はスマートフォン向けで大幅に増加するものの、下期は部材調整の影響を受け厳しい状況で推移
- 有機EL用基板 (前期比 70.0%)
 - 携帯電話(サブディスプレイ)、照明機器用途で需要の伸びが減速
- 光学機器用部品 (前期比 93.4%)
 - 液晶プロジェクター向け 光学部品は低調に推移
 - デジタルスチルカメラ向け 反射防止・指紋防止膜は2Q以降需要の伸びが減速
- その他 (前期比 109.6%)
 - スマートフォン向け加飾膜やマスクブランクス向け薄膜が増加

※()内の比率は、加工高の前期比率を表します。

※加工高とは売上高から基板材料費と外注加工費を差し引いた成膜分の売上(付加価値収入)のことです。

加工高推移

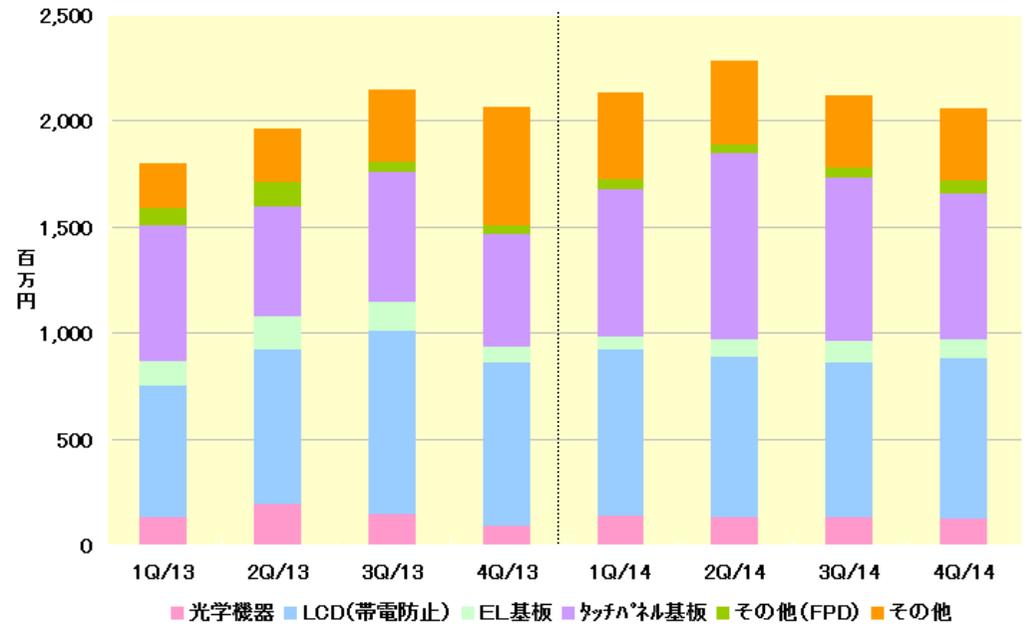
最終製品別加工高推移



← 13.03期実績 →

← 14.03期実績 →

品目別加工高推移



← 13.03期実績 →

← 14.03期実績 →

※加工高とは売上高から基板材料費と外注加工費を差し引いた成膜分の売上(付加価値収入)のことです。

2015年3月期業績見通しについて

市場環境について

競争環境における機会

- 新興国におけるスマホの高成長
- 中小型ディスプレイの大型化と高精細化
- タッチパネルのインセル化と高精細化
- ノートPCからタブレットPCへの置き換わり

競争環境における脅威

- 先進国におけるスマホ需要の減速
- 新興国向けローエンドモデル比率の増加
- 海外液晶・タッチパネルメーカーの低価格攻勢
- スマホとタブレットのカニバリゼーション

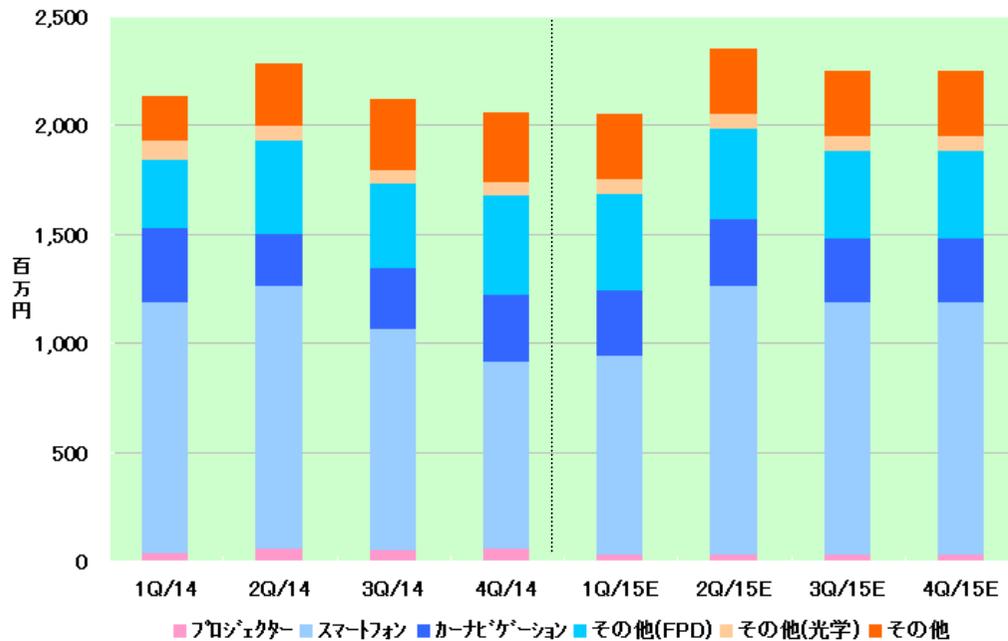
低価格対応の為の原価低減と高精細パネル技術へのキャッチアップが鍵

2015年3月期業績見通し

	2015.3	2014.3	前年同期比較		参考値(単体) 2015.3
			増減額	(増減率)	
売上高 (百万円)	10,500	10,347	153	(1.5%)	8,900
営業利益 (百万円)	1,100	995	105	(10.5%)	1,060
経常利益 (百万円)	1,120	1,017	103	(10.0%)	1,080
純利益 (百万円)	1,000	979	21	(2.1%)	960
加工高 (百万円)	8,900	8,594	306	(3.6%)	7,890
研究開発費 (百万円)	500	481	19	(4.0%)	500
設備投資額 (百万円)	1,000	1,339	△ 339	(△ 25.3%)	950
減価償却費 (百万円)	1,100	974	126	(12.9%)	956

加工高見通し

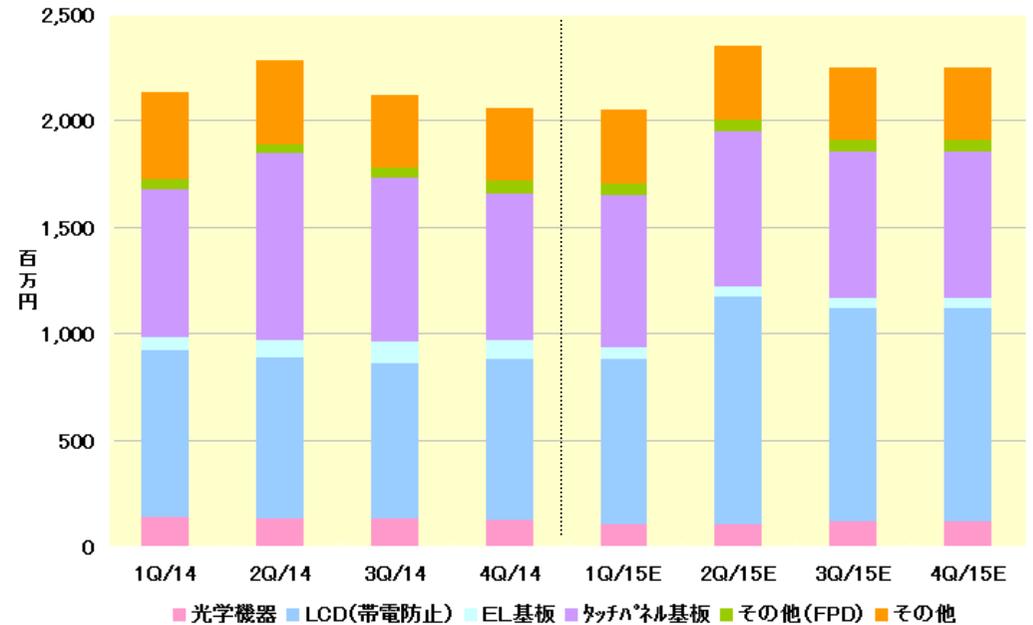
最終製品別加工高推移



← 14.03期 実績 →

← 15.03期 見込み →

品目別加工高推移



← 14.03期 実績 →

← 15.03期 見込み →

※加工高とは売上高から基板材料費と外注加工費を差し引いた成膜分の売上(付加価値収入)のことです。

取り組みについて

■ 既存分野への取り組み

- IPS液晶用帯電防止膜の増産対応とコスト競争力の強化
- In-Cell型静電容量タッチパネルの低抵抗・高透過率対応
- Film静電容量タッチパネル向け受注強化
- マスクブランクス向け受注強化

■ 新規分野への取り組み

- 試作・小ロット品の生産体制改造と生産性の向上
- 新市場(医療分野)への成膜製品展開

ご清聴いただき、ありがとうございました

注意事項

- ・ 情報提供の目的

当資料の目的は、当社への理解を深めていただくことを目的としており、投資勧誘を目的としたものではありません。なお、掲載されている情報は、細心の注意を払って作成しておりますが、掲載されている情報には不測の誤りがある可能性があります。当資料のご利用により、被害・損害が発生したとしても、当社は一切責任を負うものでないことをあらかじめご了承ください。

- ・ 将来予測に関する考え方

当資料に掲載されている情報には、当社の計画、予測など将来の見通しに関する記述が含まれています。これらは、現時点で入手可能な情報から得られた当社の判断および仮定に基づくものであり、既知または未知のリスク、不確実性及びその他の要因が内在しています。それらの影響により、当社の業績、事業活動、財務状況は、見通しと大きく異なる場合があります。